

令和 5 年 6 月 23 日現在

機関番号：32651

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02089

研究課題名(和文) 女性医師の健やかなキャリアのために - 妊娠・出産とキャリアの実態調査 -

研究課題名(英文) Career, Pregnancy and Childbirth of Japanese Women Physicians

研究代表者

川瀬 和美 (Kawase, Kazumi)

東京慈恵会医科大学・医学部・准教授

研究者番号：50287306

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：日本内科学会(IM)、日本産科婦人科学会(OG)、日本外科学会(S)女性会員を対象に妊娠出産とキャリアに関するアンケート調査(内容は基本的情報に加え、理想の結婚出産時期、職場での妊娠出産に関するハラスメントやセクハラの経験、避妊や不妊治療、妊娠時の労働環境、妊娠分娩時の合併症、妊娠出産を契機とした離職の経験など)を施行した。

総回答(回答率%)はIM 5,454(21.9)、OG 1,225(20.4)、S 1068(29.9)で、うち有効回答7,747を解析した。女性医師の出産年齢は全国平均に比し高く、キャリアを重要視しているが、妊娠出産を契機とした離職は約20%に認められた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は3つの異なる専門分野(内科、産婦人科、外科)の女性医師の妊娠出産とキャリアに対する実態と考えを明らかにする目的で行った。その結果、専門分野間の類似点や相違点、わが国の一般女性との相違点などが明確となり、女性医師のキャリアに妊娠出産がどのように関係するかも推測できた。また、キャリアと少子化の関連も推察することができた。今回の研究結果より、女性医師に限らず専門的な教育を受けた女性が社会的に活躍し、キャリアを積み、持続的に社会貢献を続けるために必要な事は、キャリアのために出産を後回しにしなくても子供を産み育てつつもキャリアを積んでいける体制を構築することと考えられる。

研究成果の概要(英文)：To determine current conditions of pregnancy/childbirth among women physicians and the critical factors for female physicians to maintain their careers along the course of pregnancy/childbirth, a survey on three medical societies; the Japanese Society of Internal Medicine (IM), the Japan society of Obstetrics and Gynecology (OG), and the Japan Society of Surgery (S); was conducted.

In total, 7,747 women (IM 5,454, OG 1,225, S 1,068) participated in this study with the response rate of 22.8%. Women doctors in S were more likely to have fewer numbers of children compared with those in IM and OG. The mean age at each childbirth was significantly older among women physicians was significantly older than the age in general population in Japan. Almost 40% of women physicians experienced harassments related sex/pregnancy/childbirth. Although various exemptions from work have been implemented during pregnancy, 20% of women left or changed their work after child delivery.

研究分野：ジェンダー

キーワード：妊娠出産 女性医師 キャリア

## 1. 研究開始当初の背景

女性医師・研究者数は年々増加の一途をたどり、医学部の女子学生は4割近く、新卒医師においては3割を超える。各専門分野での女性の実働が求められるとともに、性差医療など医療の分野も多様化し、今後人口も高齢化するため、女性医師の今後の活躍は更に必要とされている。一方、医師という専門性の高い領域においても依然として従来の男女役割分担(男性は仕事、女性は家庭)の考えは未だに根強く残る(Kawase, et al.2014)。こうした傾向は特に外科系診療科において顕著であり、出産育児を考える事により外科診療科の参入を選択しない、あるいは選択しても出産や子育てを契機に仕事を続けられずに辞めていく女性が後を絶たない(Kawase, et al. 2015)。外科系診療科では全体の医師数が大きく不足しており、昨今におけるがん患者の医療を支える外科医や腫瘍内科医などのマンパワーが圧倒的に不足している。実際、OECD 諸国の中での女性医師数は、日本が最低であり、皮膚科や小児科、産婦人科といった診療科では女性医師の占める割合は高いが、外科や脳神経外科などの診療科では非常に低いか、いても若い世代のみである。今後日本も欧米諸国同様、女性医師が増加することが予測されており、女性医師のキャリアの継続のための環境整備は喫緊の課題といえる。

一昔前は「キャリアを選択するなら、結婚は諦める」、というキャリアウーマンが多かったが、今はほとんどの若い女性医師が結婚・出産願望を持っている。本研究申請代表者が参画する日本外科学会男女共同参画推進委員会で2014年に行った調査(JSS 調査)でも、20代の90%、30代の80%が結婚、出産願望を持っていた。しかし我々の先行調査では未だに希望と乖離し諦めざるを得ない状況にある。

妊娠・出産の時期とキャリア形成の時期が重なるため、この時期をどうするかは、重大な問題である。我が国ではこの40年間に平均婚姻年齢は4.6歳上昇しているが、特に専門職においては、キャリアを優先し、結婚・出産を遅らせる傾向が強い。JSS 調査においても結婚年齢女性平均30.8±0.24歳となっている。また、我々が行った調査でも、専門医資格取得後、または研修終了後に出産をしようと考えている人が約半数を占めていた。

結婚・妊娠を遅らせた結果、妊孕性の低下が問題となる。この問題は明白だが、不妊治療を施行する側での研究や報告は数々なされているものの、医学的なプロフェッショナルである女性医師における不妊治療の実態はほとんど明らかにされていない。

医師の仕事は時間外就業や緊急事態なども多く、身体的にもストレスが多い。われわれが行った単一施設の調査では、外科系女性医師の半数に何らかの妊娠合併症が認められている。しかし、大規模な女性医師の妊娠中の合併症、出産時の合併症に関する実態調査は今まで行われたことはない。

昨今、妊娠や出産を理由にした職場での嫌がらせや降格などの不当な扱い(マタニティーハラスメント: マタハラ)が問題となっている。女性議員に対するセクハラやじ問題などに見られる如く、我が国では現在でも社会的地位の高い職種においてすら女性に対する侮蔑がまかり通っている。女性医師の間でも妊娠に関連するハラスメントを受けたという経験は日常茶飯事に言われている

が、その実態もわかっていない。このことで受けた精神的ストレスがその後のキャリアおよび個人の生活に影響する可能性も考えられるが、この影響に関しては全く調査されたことはない。

今までに行われた調査は、限られた施設や学会における調査であった。上述したように、妊娠・出産を考えるが上に専門分野を選択する傾向があると考えられているが、これまで横断的に各専門分野での妊娠・出産の実態調査が行われ、比較検討されたことはない。

## 2. 研究の目的

本研究は外科領域の学会と内科学会に所属する女性医師を対象に以下を明らかにする。

1. 職場環境と妊娠・出産の可否の実態と希望
2. 実態と希望のギャップ
3. 妊娠・出産の合併症と妊娠期の労働環境との関連
4. 各種ハラスメントの経験の有無と現在の就労モチベーションとの関連

## 3. 研究の方法

2018年、日本外科学会男女共同参画委員会が主導で日本外科学会女性会員全員を対象に「女性外科医の妊娠・出産に対する意識とその実態に関するアンケート調査」をウェブ形式で施行した。更に2019年、日本産科婦人科学会(サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会)、また日本内科学会(学会在り方検討委員会 男女共同参画・働き方改革ワーキンググループ)の協力を得て、2学会女性会員を対象にアンケートに若干の修正を加えて同調査を施行した。

アンケートは妊娠出産にまつわるかなり繊細な内容を含むため、趣旨に賛同しアンケートを開始した後、さらに最初の質問で調査の参加に同意した方のみがアンケート回答に進む形とした。また回答は無記名で返信されたためあらかじめ匿名化されたデータが解析に利用された。

質問項目として、基本的情報、仕事の状況、生活の状況、全員に対して理想の結婚出産時期、職場で今までに妊娠出産に対するネガティブなコメントやセクハラを受けたことがあるか、仕事のための避妊や不妊治療の経験、妊娠出産経験のある人に対しては子供の数、出産年齢、妊娠時の労働に関して、マタニティハラスメントの経験、妊娠出産を契機とした離職の経験、不妊治療、妊娠分娩時の合併症、また妊娠出産に関する自由なご意見も伺った。

## 4. 研究成果

総回答は日本内科学会(IM)5,454、回答率 21.9%、日本産科婦人科学会(OG)1,225、回答率 20.4%、日本外科学会(S)1068、回答率 29.9%で、うち有効回答数 IM 5349,OG 1209 ,S 1015 を解析した。

結果

1. 理想の出産時期はレジデント終了後あるいは専門医取得後の回答が多く女性医師がキャリアを重要視していることがわかった。
2. 不妊治療は 30 代後半から 40 代前半で 40%近くが経験しており、ほとんどが常勤フルタイムで治療を受けていた。
3. パートナーが育休取得した人のほうが、平均子供数が多かった(取得あり 1.81, 取得なし 1.57,  $p<0.01$ )。
4. 出産年齢は全国平均に比し高齢傾向であった(第 1 子出産時平均年齢:IM 32.5, OG 31.9, S 33.1, 全国平均 30.7)。
5. 外科女性医師の子供数は有意に他科に比し少なかった(婚姻者における平均子供数 IM 1.8, OG 1.9, S 1.7,  $p<0.01$ )。
6. 経年的に意識改善が芽生えてきている可能性はあるが、妊娠出産に関するハラスメントは約 40%。セクシュアルハラスメントも 40 - 50%が経験していた。
7. 妊娠合併症は約 30%、分娩合併症は約 20%に認められ、労働時間とは関係が認められなかった。
8. 就労緩和と産前産後休業はだいたい取得しているが、妊娠出産を契機とした離職は約 20%に認められた。IM, OG では年代を経るごとに診療所勤務の増加が認められ、短時間勤務者も一定数認められた。一方 S は有意に労働時間が長く、未婚者割合が高く、子供を持つ人の割合および子供の数が少なかった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 川瀬和美	4. 巻 122
2. 論文標題 理想の男女共同参画を目指して 女性外科医の妊娠・出産の実態とキャリア	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本外科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 363-365
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川瀬和美	4. 巻 122
2. 論文標題 理想の男女共同参画を目指して 女性外科医が経験するハラスメント	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本外科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 437-439
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawase Kazumi, Nomura Kyoko, Nomura Sachiyo, Akashi-Tanaka Sadako, Ogawa Tomoko, Shibasaki Ikuko, Shimada Mitsuo, Taguchi Tomoaki, Takeshita Emiko, Tomizawa Yasuko, Hanazaki Kazuhiro, Hanashi Tomoko, Yamauchi Hideko, Yamashita Hiroko, Nakamura Seigo	4. 巻 51
2. 論文標題 How pregnancy and childbirth affect the working conditions and careers of women surgeons in Japan: findings of a nationwide survey conducted by the Japan Surgical Society	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Surgery Today	6. 最初と最後の頁 309 ~ 321
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s00595-020-02129-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawase K, Nomura K, Nomura S, Akashi-Tanaka S, Ogawa T, Shibasaki I, Shimada M, Taguchi T, Takeshita E, Tomizawa Y, Hanazaki K, Hanashi T, Yamauchi H, Yamashita H, Nakamura S.	4. 巻 51
2. 論文標題 How pregnancy and childbirth affect the working conditions and careers of women surgeons in Japan: findings of a nationwide survey conducted by the Japan Surgical Society	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Surgery Today	6. 最初と最後の頁 309-321
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s00595-020-02129-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川瀬 和美, 中村 清吾, 野木 裕子, 神尾麻紀子, 武山 浩, 大木 隆生	4. 巻 120(1)
2. 論文標題 女性外科医の妊娠・出産とキャリア 女性医師を対象としたアンケート調査の分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本外科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 117-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川瀬和美、中村清吾、野木裕子、神尾麻紀子、武山浩、大木隆生	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 女性外科医の妊娠・出産とキャリア - 女性医師を対象としたアンケート調査の分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本外科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計9件(うち招待講演 4件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 川瀬和美
2. 発表標題 日本外科学会の取り組み
3. 学会等名 令和3年度 女性医師支援担当者連絡会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川瀬和美、野村恭子、田口 智章、野村 幸世、明石 定子、小川 朋子、柴崎 郁子、島田 光生、竹下恵美子、富澤 康子、花崎 和弘、葉梨 智子、山内 英子、山下 啓子、中村清吾.
2. 発表標題 夢を持ち、やりがいを持って努力する女性外科医が今よりもっと活躍できるために - 今求められること -
3. 学会等名 第120回日本外科学会定期学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kazumi Kawase
2. 発表標題 Breaking Societal Barriers to Be a Surgeon
3. 学会等名 48th World Congress of Surgery (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川瀬和美、野村恭子、田口 智章、野村 幸世、明石 定子、小川 朋子、柴崎 郁子、島田 光生、竹下恵美子、富澤 康子、花崎 和弘、葉梨 智子、山内 英子、山下 啓子、中村清吾
2. 発表標題 日本女性外科医の妊娠・出産とキャリアをめぐる実情と課題
3. 学会等名 第119回 日本外科学会定期学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川瀬和美、野村恭子、田口 智章、野村 幸世、明石 定子、小川 朋子、柴崎 郁子、島田 光生、竹下恵美子、富澤 康子、花崎 和弘、葉梨 智子、山内 英子、山下 啓子、中村清吾
2. 発表標題 日本女性外科医の妊娠・出産とキャリアをめぐる実情と課題
3. 学会等名 第119回 日本外科学会定期学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川瀬和美、中村清吾、野木裕子、神尾麻紀子、武山浩、大木隆生
2. 発表標題 女性外科医の妊娠・出産とキャリア
3. 学会等名 第118回 日本外科学会定期学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川瀬和美
2. 発表標題 ダイバーシティ、男女共同参画について
3. 学会等名 日本産科婦人科学会拡大サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川瀬和美
2. 発表標題 外科の立場から、ダイバーシティを考える
3. 学会等名 日本核医学会 なでしこの会主催シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川瀬和美
2. 発表標題 女性医師のライフデザインとキャリア継続を考えるためのヒント 外科医としての経験から
3. 学会等名 富山県医師会 女性医師のライフデザインとキャリア継続を考える講演会（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	野村 恭子  (Nomura Kyoko)  (40365987)	秋田大学・医学系研究科・教授    (11401)	



6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	野村 幸世  (Nomura Sachiyo)  (70301819)	東京大学・医学部附属病院・准教授     (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関